



「非計画的人生」を歩んだ私が 喜寿を迎えて抱く「計画的人生」

SAM日本チャプター理事・広島支部長
(株)ロジタント 代表取締役

吉田 祐 起



今年10月28日に喜寿を迎えた私は、わが人生を振り返ってしみじみと思います。わが人生は「非計画的」であり続けてきている、と。生後10ヶ月でポリオに罹ったのがそのスタート。被爆で九死に一生を得たのも束の間、父と死別。大学進学を断念して生計を支えるために技術職人（後に自営業化）を選択。得意の英語を駆使して米国から新技術を導入、米国産業留学の推薦を受けながら結婚相手の父死去で全商権を弟子に譲り、トラック運送業経営者へ転身。32年間で7社グループの業容を構築したまでは良かったものの、ディスクロージャがもとでお家騒動。離婚も含めて全てを手放し、満61歳の通常定年期で現在の会社を設立し、15年が経ちました。全てが行き当りばったり(?)の「非計画的」人生だったと回顧します。

人生ってままたらぬもの、とは言うものの、考えてみると自分自身の人生計画を構築する間もなく、その時々運命に身を委ねた、委ねざるを得なかったといえるでしょう。そうは言っても、その都度成長してきたと思うのですが、それにはわが処世術としてきた「その場その場でベストを尽くす」の一言だったと想起します。木下藤吉郎ではありませんが、「足軽になるなら、天下第一の足軽に！」って調子でした。事実、青年期のそれはホンモノの日本一になりました。米国から導入した二つの新技術の全国普及と、独自に発明商品化した3つの器具の販促で全国を講演・実演で飛び回り特許料収入も含めた高収入者の青春時代でした。その私が、人生第二、第三毛作を演じつつ満77歳の喜寿を迎えて、本格的に「計画的人生」を構築し始めているのです！ なになに!!?? といいた声が聞こえてきそうです。その前に……。

一般論ですが、人間って、誰しも「計画的人生」を歩みたがるものです。でも近年の「自分探し」といった形の「わが計画的人生の探求」なるナンセンス（失礼！）なものがあります。一般的には好きな分野の勉強を求めて学校・学科を選択し、卒業後はどの会社に入社し、定年後は夫婦で何をする、といった調子です。これって、「リニアタイプの人生」です。人生計画通りにいくのがベストかどうかは別にしますが、本人の計画を最優先すれば、家族や周辺の人々に多少たりとも迷惑や不自由を与えかねません。計画通りということは多少の妨げを排除することが求められるのが常ですから。その点、私の場合は周囲の人（家族）のために非計画性を余儀なくされたことから、迷惑を掛けたことは無かったと自負します。だからと言って、自身が犠牲になったとはサラサラ断じて思ったこともありません。かのカントが死に際に言ったとされる、“Es ist gut.”（これでヨシ）の心境ではあります。紆余曲折の人生、これは「サイクリック型」です。

最初で最後(?)の計画的人生設計が現実味を帯びてきています。米国を中心にした海外における「英語による原爆語り部役」。被爆64周年(2009年)を契機として、前代未聞の発言を海外在住で展開します。この企画に応じたかのように台頭してきているのがフィリピンの看護師大学における女学生に対する日本語と人間教育プログラム。この延長線上には、今流行りの海外における「ロングステイ」が待ち受けます。10ヶ月先を見据え、11年間継続してきている東京クライアントの契約終結をお願いし、新規契約の福井市地場大手のクライアントと永年の地元クライアントに全力投球しながら、「吉田の美学」を貫きます。